



2023

国立大学法人 琉球大学病院

看護部概要





「知識」「技術」「思いやりの心」





に基づいた安心・安全な看護の提供



Contents

- 看護部長あいさつ・看護部方針・2023年度看護部目標 3
- 看護部の組織 4
- 専門・認定看護師の看護活動 5
- 看護体制・勤務体制・看護方式 7
- キャリア形成を支える教育体制 8
- 看護師育成プログラム 9
- 2023年度 現任教育 ー新人看護師育成プログラムー 11
- 2023年度 現任教育 ー静脈注射教育プログラムー 12
- 院内研修 ーレベルⅠ教育ー 13
- 院内研修 ーレベルⅡ教育ー 14
- 先輩ナースからのエール 15
- 働き続けられる職場環境 16
- 部署紹介 17

看護部長のあいさつ

「専門的知識」に基づいた「看護実践」を「思いやりの心」で提供する



看護部長・副病院長
(認定看護管理者)
眞榮城 智子

本院は、沖縄県内唯一の大学病院かつ特定機能病院として、高度で質の高い医療の提供と医療人の育成を使命としています。看護部では「知識・技術・思いやりの心」の3つの輪をシンボルマークとし、「専門的知識に基づいた看護実践を思いやりの心で提供する」ことを理念に掲げ、日々進歩する医療に対応した専門性の高い看護の実践を目指しています。

2020年から続く新興感染症は、2023年5月には感染症法上の「2類相当」から「5類」への変更が表明されました。3年の長きにわたる感染対策が終わることの期待の一方で、院内での感染拡大につながらないかなどまだまだ感染対策のあり方を検討することになるだろうと思います。この3年間で、孤食というスタッフ間での交流も厳しく制限されました。たわいのない経験談から先輩看護師の大切にしている看護観を伝えるなどしてきたスタッフにとっては、もどかしさも感じてきました。その中であっても、看護の現場で「できることは何か」「何が最善か」と大切にしている看護を言語化し伝えることで、互いの成長を促し、安心・安全な看護の提供に努めてきました。ストレスフルな状況ではあっても、上司や同僚のサポートが充実しているという評価も得られています。

新人教育体制では、集合研修と現場での実践が連動するよう、新人教育サポーターを中心にスタッフ全員が新人教育へ参画し、現場でのOJTを強化しています。今年度より部署ごとの大切にしている看護についての学びを深め、看護観の醸成とキャリア計画につなげるべく、院内留学研修を計画しています。大切にしている看護を言語化しリフレクションすることで、看護師としてのやりがい感につなげていきたいと考えています。目標管理においては2021年度からBSCを取り入れ、看護の可視化の充実を図っています。リンクナースの活躍は目覚ましく、除痛率の向上や褥瘡発生率の減少にむけてのケアの質向上を感じています。

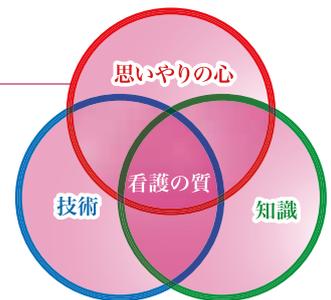
VUCA（予測が困難な状態）時代であっても、最善を考える、できることを考え行動する、求められる姿を想像し柔軟な考えで作り上げていく、互いを信じ助け合うことが強くしなやかな看護部を作ると信じ、共に歩んでいきたいと思えます。

看護部理念

専門的知識に基づいた看護実践を思いやりの心で提供する。

看護部の基本方針

1. 健康のあらゆる段階に対する全人的看護の提供
2. 高度先進医療における看護技術の開発並びに患者のQOLへの支援
3. 患者中心の医療提供のための他部門との協働および地域との連携
4. 看護の質向上を目指した教育・研究の実践と業務改善
5. 働きがいのある職場環境の改善とWLBの推進



2023年度 看護目標

1. 看護独自の機能を発揮し予防ケアを強化する。
2. 倫理的感性を高め患者・家族のニーズに答える。
3. 安心・安全なタスクシェアの推進を図る。

看護部の組織

看護部長

副看護部長 (総務)

副看護部長 (業務)

副看護部長 (教育)

実習担当師長

教育担当副師長

副看護部長 (経営)

副看護部長 (安全)

日直・当直看護師長

■看護部から看護師を配置

- 自己血採血室
- 治験管理室
- 病後児保育室
- 総合案内
- シミュレーションセンター
- キャリア形成支援センター

病棟部門

看護師長 — 副看護師長 — 看護師 — 看護助手
(1階～10階病棟)

外来部門

看護師長 — 副看護師長 — 看護師 — 看護助手
(21診療科、外来化学療法室、高気圧治療部)

中央診療部門

手術部 看護師長 — 副看護師長 — 看護師 — 看護助手

集中治療部 看護師長 — 副看護師長 — 看護師 — 看護助手

救急部 看護師長 — 副看護師長 — 看護師

医療福祉支援センター 看護師長 — 副看護師長 — 看護師 — 看護助手

材料部 看護師長 — 看護師

光学医療診療部 副看護師長 — 看護師 — 看護助手

血液浄化療法部 看護師長 — 副看護師長 — 看護師 — 看護助手

緩和ケアセンター 副看護師長 — 専門看護師・認定看護師

安全管理対策室 副看護部長 — 看護師長

褥瘡対策室 副看護師長 — 認定看護師

感染対策室 副看護師長 — 認定看護師



総務担当 副看護部長
(感染管理認定看護師)
富島 美幸



業務担当 副看護部長
伊良皆 美香



教育担当 副看護部長
(認定看護管理者)
饒平名 かおり



経営担当 副看護部長
小渡 清江



安全担当 副看護部長
吉永 成子

看護師数

2023年4月1日現在

看護部長	副看護部長	看護師長	副看護師長	看護師	看護師 (非常勤)	再雇用 (30時間)	看護師 合計	看護助手
1人	5人	26人	64人	522人	10人	11人	639人	69人

専門・認定看護師数

認定看護管理者	3人	感染管理	6人	
専門看護師	がん看護	3人	皮膚・排泄ケア	5人
	急性・重症患者看護	1人	慢性心不全看護	2人
	慢性疾患看護	1人	摂食・嚥下障害看護	2人
	精神看護	1人	認知症看護	2人
認定看護師	がん化学療法看護	3人	糖尿病看護	1人
	がん放射線療法看護	2人	集中ケア	3人
	緩和ケア	2人	新生児集中ケア	1人
	糖尿病看護	1人		
認定看護師 計	12領域		30人	

領域別資格取得者数

特定行為研修修了者	29人	リンパ浮腫療法士	2人
糖尿病療養指導士	10人	自己血輸血看護師	2人
呼吸療法認定士	7人	臨床輸血看護師	2人
心臓リハビリテーション指導士	3人	消化器内視鏡技師	4人
HIV コーディネーター	2人	ACLS・ICLS	21人
NST 専門療法士	4人	NCPR	18人
NST 専門療法士実地修練修了者	150人	アドバンス助産師 (レベルⅢ)	7人
第一種滅菌技師認定	1人	人工心臓管理技術認定士	2人
認定排泄ケア専門員	2人	腎臓病療養指導士	1人
口腔ケア認定士	17人	インターベンションエキスパートナース	3人

専門・認定看護師の看護活動



集中治療部
看護師長
具志 香奈絵

急性・重症患者看護専門看護師

緊急度や重症度の高い患者に対して集中的な看護を提供し、患者本人とその家族の支援、医療スタッフ間の調整などを行い、最善の医療が提供されるように支援しています。臨床判断能力の育成支援として、病棟看護師と重症化リスクの高い患者の病態把握、看護行為を検討しています。

また、呼吸ケアチームの一員として病棟ラウンドを行い、安全に呼吸ケアの管理ができるよう助言を行っています。



9階東病棟
看護師
玉城 雄也

慢性疾患看護 専門看護師

慢性疾患の中でも循環器看護のスペシャリティを活かして、主に心血管疾患患者を対象とした慢性疾患ケアの充実に取り組んでいます。心血管疾患は、長期的な経過を辿り、憎悪と寛解を繰り返しながら進行していくため、患者さんの病期や予後、QOLなどを考慮して、患者さん・家族が望む療養生活が実現できるように支援しています。



医療情報
看護師長
多和田 慎子



緩和ケアセンター
看護師
砂川 華



緩和ケアセンター
看護師
狩俣 勇斗

がん看護 専門看護師

病棟・外来を問わず横断的に活動しながら、がん患者さん・家族、医療スタッフからの相談を受けています。患者さんが、がんと闘いながら孤立せず、自分らしく生きていくことができるように多職種との連携を通して支援をしています。

特に入院時の痛みのスクリーニング実施とインフォームドコンセントへの同席を強化し、患者さんの意思決定支援を行っています。



5階東病棟
看護師
金内 和昭

精神看護専門看護師

リエゾンとはフランス語で、連携、繋ぐを意味します。サブスペシャリティであるリエゾン看護の連携は、身体と精神、患者と医療スタッフなど橋渡しを意味すると解釈できます。

リエゾン精神看護師として、実践だけではなく、精神看護の学習会、看護研究支援、医療スタッフのメンタルヘルス、倫理に力を入れたいと考えています。



9階東病棟
看護師長
上原 泉



管理室
副看護師長
外間 太樹
(特定行為看護師)



集中治療部
看護師
具志堅 一希

集中ケア 認定看護師

ICUに入室される患者さんの身体的・精神的苦痛の緩和を図り、早期回復への支援を行っています。特殊な環境下にある患者さんが回復と自己コントロール感を実感できる看護を目指しています。また、患者さん・ご家族とゴールを共有し、多職種と互いに専門性を発揮し協働して関わっています。



安全管理対策室
看護師長
阿嘉 直美



7階東病棟
看護師長
玉城 賢志
(特定行為看護師)

慢性心不全看護 認定看護師

入退院を繰り返す患者さんに対し、症状コントロールに必要な生活指導と服薬指導を行っています。また、心臓リハビリテーション指導士と連携し、在宅療養が継続できるようにサポートをしています。病棟スタッフへ実践指導と勉強会などの教育支援を行っています。



外来化学療法室
副看護師長
里見 雄次



7階西病棟
副看護師長
難波 綾乃



8階西病棟
看護師
諸見里 真

がん化学 療法看護 認定看護師

がん化学療法を受ける患者さん・ご家族の身体的・精神的・社会的状況を包括的に理解し、安全に安心して治療が続けられるよう専門性の高い看護を実践しています。また、がん化学療法看護に関する院内研修を行っています。



緩和ケアセンター
看護師
棚原 陽子



9階西病棟
看護師
中村 翼

緩和ケア 認定看護師

患者さんの痛みやリンパ浮腫などの身体および精神的苦痛の緩和、家族のつらさの軽減など早い時期から介入し、患者さんが安心して自分らしい生活ができるように心がけています。また、患者さんが安心して病気と向きあえる体制作りにも力を入れています。



管理室
副看護部長
富島 美幸



感染対策室
副看護部長
眞榮城 咲子
(特定行為看護師)



集中治療部
副看護部長
伊徳 清貴



感染対策室
看護師
渡慶次 道太



感染対策室
看護師
鈴木 聡美



救急部
看護師
菅 力也

感染管理認定看護師

患者さんや医療スタッフの感染予防と対策を行うため、組織横断的に活動しています。手指衛生の推進や職業感染予防、教育活動などに携わっています。

特に力を入れているのが医療関連感染サーベイランスの実践であり、医療関連感染予防ケアの質の向上を目指して活動しています。



キャリア形成支援センター
看護部長
平良 智恵美
(特定行為看護師)



外来
副看護部長
平 洋子



褥瘡対策室
副看護部長
仲宗根 亜由子



10階西病棟
副看護部長
新崎 真由美



褥瘡対策室
看護師
翁長 浩一郎
(特定行為看護師)

皮膚・排泄ケア認定看護師

外来や病棟で患者さんにケアを行う一方、スタッフからの相談対応、定期的な勉強会の開催、褥瘡対策チーム回診等を通じてスタッフ教育にも携わっています。患者さんの快適な日常生活のサポートを行えるよう知識・技術の向上、ケアの開発に取り組んでいます。



医療福祉支援センター
副看護部長
神村 美奈子



10階東病棟
副看護部長
下地 あずさ

摂食・嚥下障害 看護認定看護師

摂食嚥下障害のある患者さんのケアに取り組んでいます。口腔ケアや食事介助を通じて患者さんの生命力の復活と疾病からの回復を図っています。他部署からのコンサルトなどにも積極的に介入し、口腔ケアや摂食ケアに必要な知識とスキルをスタッフへ伝え、ケアの向上を目指しています。



9階東病棟
副看護部長
知念 さゆり



看護師
知花 紫維菜

認知症看護認定看護師

認知症者の意思を尊重することを目指し、認知症をもちながらも安心して治療が受けられるよう支援しています。

また、退院後もその人らしく生活できるよう、患者本人とともに家族もサポートしています。看護実践を通して、認知症者へのケアに必要な知識とスキルをスタッフへ伝え、病院全体として安心できる看護が提供できることを目指しています。



集中治療部
看護師
又吉 桃子
(特定行為看護師)

糖尿病看護認定看護師

糖尿病とともに生きる人がその人らしい生活を送ることができるように、様々な医療従事者が共に考え、共に目標をもってサポートを行います。その架け橋となれるよう、多職種と連携してフットケア外来や透析予防外来で活動を行っています。



救急部
副看護部長
又吉 努

救急看護 認定看護師

救急看護は、急な病気やケガなどの緊急度・重症度を判断するトリアージをはじめ、危機的状況にある患者さんへの救命処置や精神的ケアなど、その役割は多岐にわたります。現場で実践モデルとして活動を行うとともに院内研修で技術指導を行っています。



NICU
副看護部長
与那覇 和美

新生児集中ケア 認定看護師

急性期にあるハイリスク新生児の身体的ケア、および神経行動学的発達と親子関係形成の支援を行っています。新生児と家族を中心とした医療・看護の提供を目指して、両親に学習会を開催、新生児の生きる力を家族、スタッフで支援する体制作りを行っています。



放射線治療室
副看護部長
西銘 千美



放射線治療室
看護師
宮城 智江

がん放射線療法看護 認定看護師

放射線治療に対する不安や副作用による苦痛を少しでも軽減できるよう患者さん、家族へ支援を行っています。また、治療が順調に実施されるだけでなく、生活の質が低下しないよう、医師や病棟看護師、他部門との調整役も担っています。

ストーマ (WOC) 外来

- 目的
- ・術前、外来でストーマに関する情報の提供
 - ・入院中、患者・部署スタッフへセルフケアに向けたサポート
 - ・退院後、社会復帰に向けた長期的なサポート

【対応看護師】専従看護師1名・専任看護師1名(皮膚・排泄ケア認定看護師)
【開設日】消化器:月・水・木 9:00~16:00 泌尿器:月・火・金 9:00~16:00
【開設場所】診療科外来



Wound
褥瘡などの創傷ケア
Ostomy
ストーマケア
Continence
失禁ケア

看護体制・勤務体制・看護方式

看護体制

病床数 600床

一般病棟看護配置 7:1 急性期看護補助体制加算 25:1
精神科病棟看護配置 13:1 看護職員夜間配置加算 12:1

勤務体制

2交代制(全部署) 日勤8:00～16:45 長日勤8:00～21:00 夜勤20:00～9:00

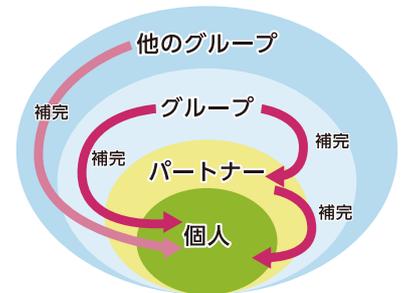
看護方式

パートナーシップ・ナーシング・システム<PNS>

パートナーシップ・ナーシング・システム(以下、PNS)は、安心・安全な看護の提供方式として福井大学医学部附属病院で開発され、当院でも2013年から全病棟で導入しています。

看護師が安全で質の高い看護を共に提供することを目的とし、2人の看護師が良きパートナーとして、対等な立場で、互いの特性を活かし、相互に補助し協力し合う看護提供方式です。

2人の看護師は、毎日の看護ケアをはじめ、委員会活動、病棟内の係りの仕事に至るまで、1年を通じたパートナーとして、その成果と責任を共有します。「責任」と「やりがい」を2人で分かち合う新たな看護方式で、さらに右図のように補完の4重構造をもってサポートする仕組みです。



補完の4重構造



ペアで本日の作戦会議



ベットサイドでのケアと記録



リシャッフルによる業務調整

パートナーシップ・マインド

Mind 心・精神・意識

他者に依存するのではなく、一人のプロフェッショナルとして自らの頭で考え、自らを助く心の持ち様である。

パートナーシップ 「共に何かを成す仲間との信頼に基づく対等な関係」

パートナーシップの3つの心 「自立・自助の心」「与える心」「複眼の心」



※ PNS の特徴

- ◆勤務の時は必ず受け持ち患者を担当することで、受け持ち看護師としての役割を発揮できる。
- ◆ペアでベットサイドに行くことで、先輩看護師の経験知や暗黙知に学ぶ機会となる(OJT効果)。
- ◆新人看護師は、先輩看護師とペアになることで、安心・安全な看護の提供に繋がる。
- ◆先輩看護師も、新人の丁寧な患者対応や気づき・フレッシュマンとしての感性に学ぶ機会となる。
- ◆個々の看護観やシャドーワークの共有が可能となる(看護観の醸成と看護技術の伝承)。
- ◆看護記録をリアルタイムに記載することで、医療チーム間で迅速な情報共有が可能となる。
- ◆勤務の定時終了で、超過勤務縮減とワークライフバランスの推進、離職防止に繋がる。

キャリア形成を支える教育体制

充実した教育体制と研修プログラムを用いて、スタッフのキャリア形成を支援しています。

ポイント1 クリニカル・ラダーと新人教育サポーター制

新人教育 パートナーシップによる指導体制を強化した新人教育サポーター制を導入しています。新人教育サポーターが新人教育の中心的役割を担い、全スタッフが計画的・段階的に指導する教育体制のもと、新人が基本的な看護技術を確実に習得できるよう支援しています。集合研修においては、実践に生かされるように演習やグループワークに力を入れています。また、フォローアップ研修等で交流の場を設け、新人同士の仲間づくりを支援しています。

現任教育 看護職員一人ひとりの持つ能力を活用し、患者中心の質の高い看護を提供することを目的として、クリニカル・ラダーによる人材育成を行っています。集合教育においては、認定看護師による、フィジカルアセスメント研修、摂食嚥下研修等に力を入れています。また、専門職として主体的に能力開発を目指す人材を組織的に支援しています。

ポイント2 シミュレーション教育

病院敷地内にクリニカルシミュレーションセンターを併設しており、臨床と同じ環境で看護技術等が習得できます。少人数のグループ毎に指導者がついて、きめ細かな指導を行っています。

◎タスクトレーニングの実施

注射や採血などの技術トレーニングです。どのような条件下でも技術が安全・正確に実施できるまで、本院の看護手順書に沿って、チェックリストを使用し反復して練習します。

◎シチュエーション・ベースド・トレーニングの実施

急変時対応などについて、状況に基づいたシミュレーション研修を行います。実際の臨床の場面を設定（シナリオ）し、思考過程のトレーニングを行います。チーム連携の強化（観察と報告）や患者さんへの説明、フィジカルアセスメントを学びます。

クリニカル・ラダーと新人教育



ポイント3 院内認定制度 Ryukyu Expert Nurse (REN)

当院では、領域毎の専門性を高めるために院内認定制度を導入しています。現在の認定分野は、ストーマケア、創傷ケア、感染管理、がん看護の3分野で院内認定を実施しています。院内認定取得者には、自部署で専門領域の実践・相談・教育を行い、看護現場における看護ケアの広がりや質の向上に貢献しています。

ポイント4 専門看護師・認定看護師によるサポート体制

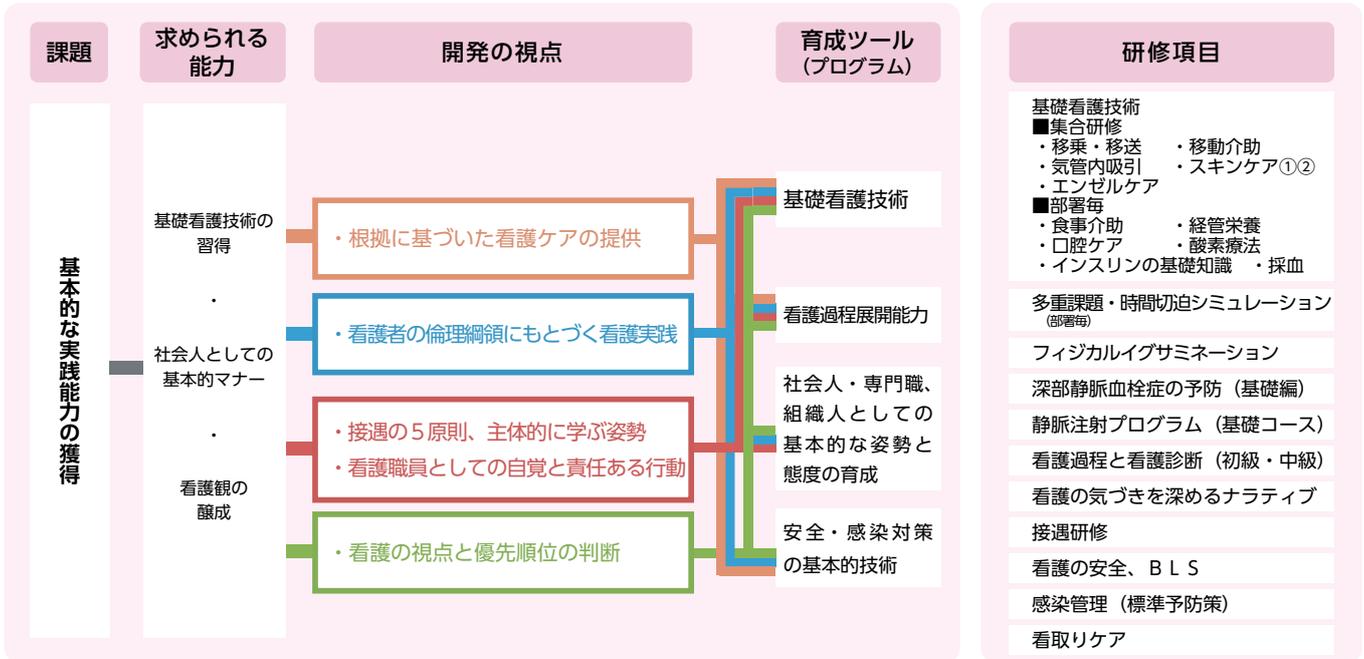
看護ケアの充実と質向上を目指し、スタッフ指導や専門領域の院内研修を担当し実践力向上をサポートしています。専門・認定看護師資格取得希望者に対しては、キャリア相談を行っています。

看護師育成プログラム

新人看護師育成プログラム レベルⅠ

新人

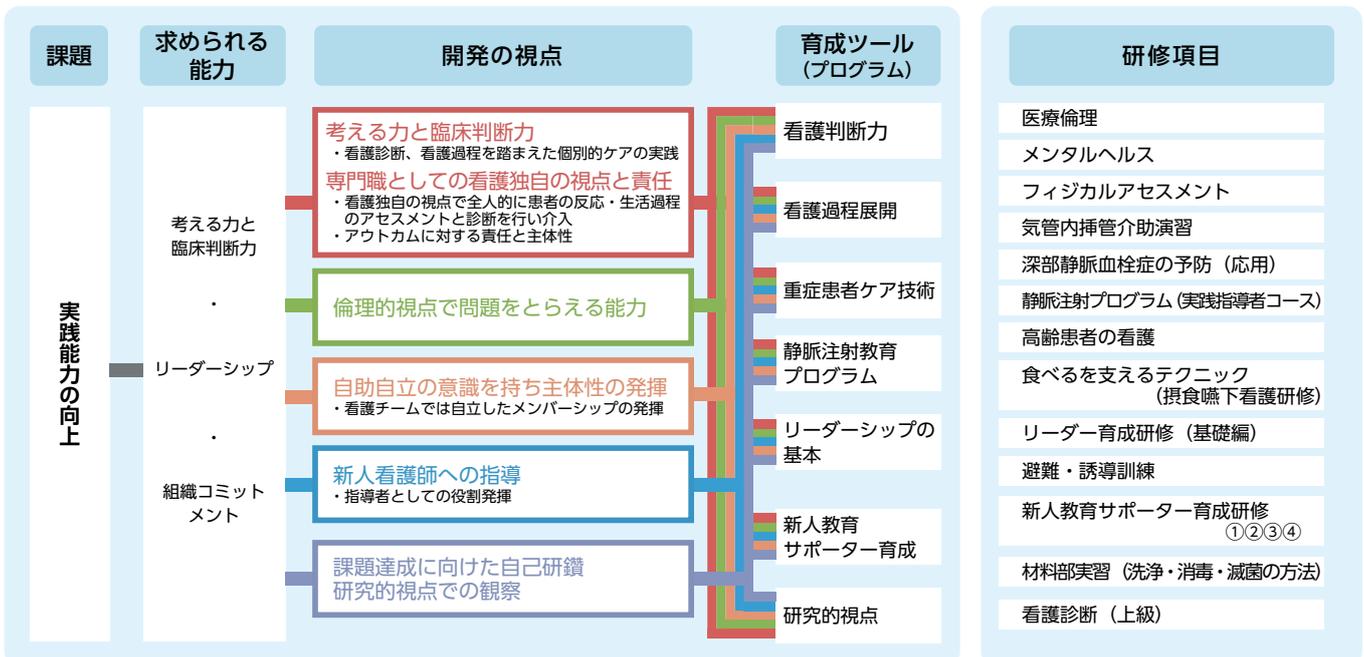
新人看護師は、根拠に基づいた看護技術を習得し、基本的な臨床実践能力の獲得と看護観の醸成につなげることが求められる。そこで、社会人としての基本的マナーを身に付け、責任ある行動がとれる人材を育成する。



一人前看護師育成プログラム レベルⅡ

メンバー

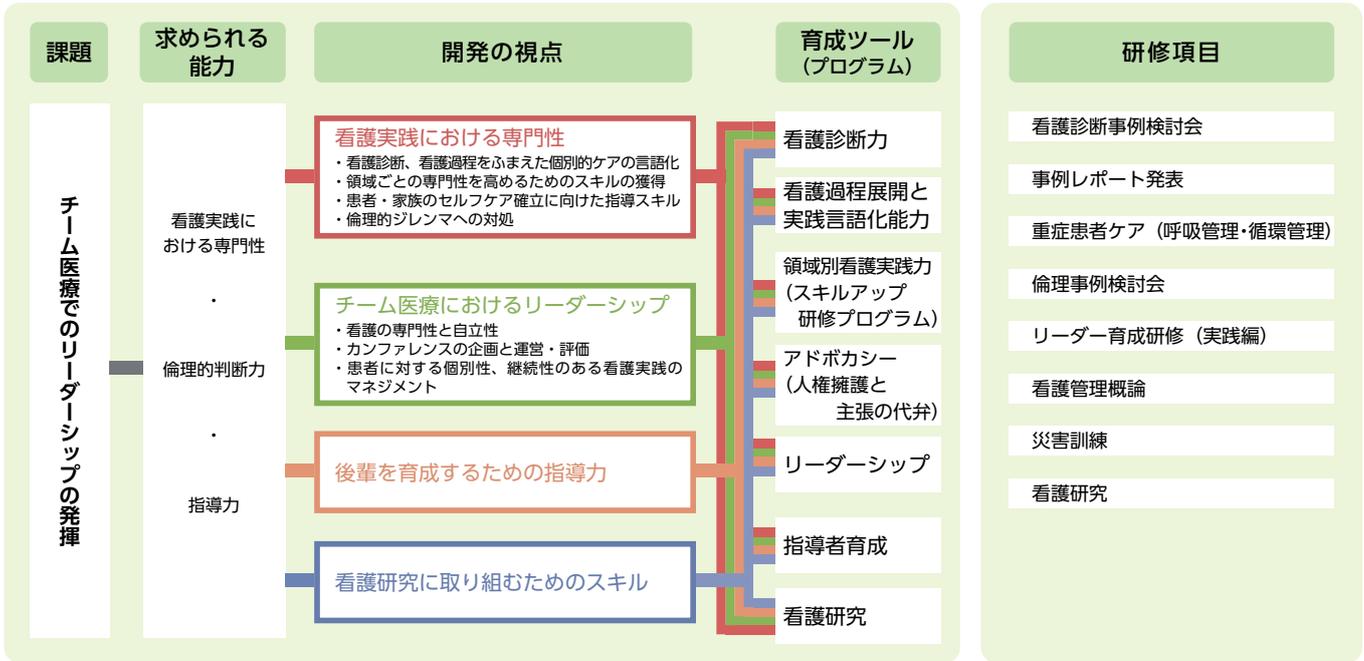
一人前看護師は、メンバーの一員として受け持ち看護師の役割を発揮し、専門職として看護独自の視点で、考える力と臨床判断力を身につけることが求められる。そこで、後輩への技術指導、メンタル面でのサポートができる人材を育成する。



中堅看護師育成プログラム レベルⅢ

リーダー

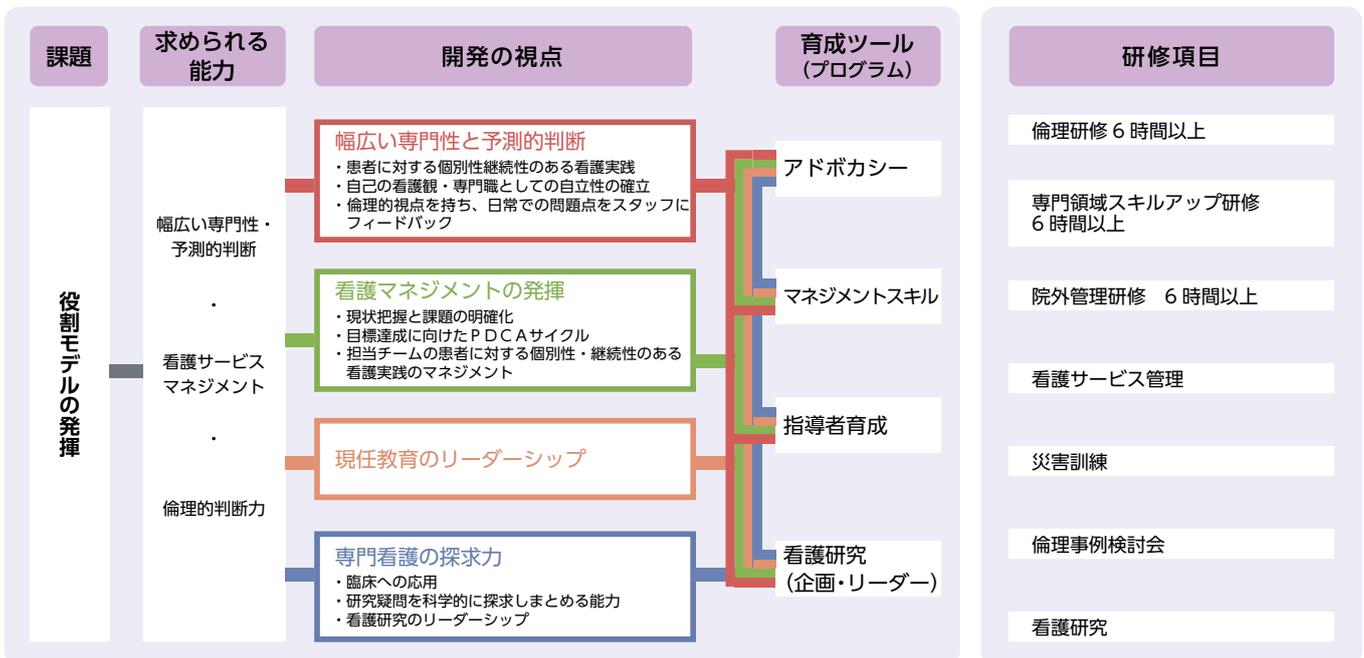
中堅看護師は、患者ニーズとスタッフの能力を考慮し、安心安全な看護ケアの提供ができるようリーダーとしての役割が求められる。そこで、部署における専門的看護実践と多職種連携を図り、チーム医療におけるリーダーシップが発揮できる人材を育成する。



達人看護師育成プログラム レベルⅣ

コアグループサブリーダー

達人看護師は、組織的な教育・研究活動を主体的に実践し部署目標に貢献できる。また、幅広い視野で予測的判断を持ち看護実践するという役割が求められる。そこで、専門領域における看護実践の役割モデルが発揮できる人材を育成する。



2023年度 現任教育 – 新人看護師育成プログラム (抜粋) –

目的 新人看護師が、社会人としてのマナーや看護観の醸成、根拠に基づいた看護技術が習得できるように支援する。

新人看護師の年間スケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
中央オリエンテーション (四日間) 接遇研修 新人歓迎会	基礎看護技術集合研修① 安全・感染管理集合研修	基礎看護技術集合研修② 深部静脈血栓症の予防(基礎編)	基礎看護技術評価(三カ月) 消火器・消火栓の取り扱い	避難誘導訓練(全看護職) ファイカールイグサミネーション研修	リフレッシュ休暇	基礎看護技術評価(六カ月) 六カ月フォローアップ研修 看取りケア		災害訓練 新規入職者ナラティブ発表会	看護部新年会 基礎看護技術評価(一年)	クリニカル・ラダー申請	定年退職者激励祝賀会
<p><病棟での動き></p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 4月 : 基礎看護技術の部署内オリエンテーション ★ 4～5月 : 個人目標面談 ★ 5～6月 : 夜勤の開始 ★ 9～10月 : 年間パートナーと受け持ち患者支援、個人目標面談 									<p>新人看護師バッジ</p> 		

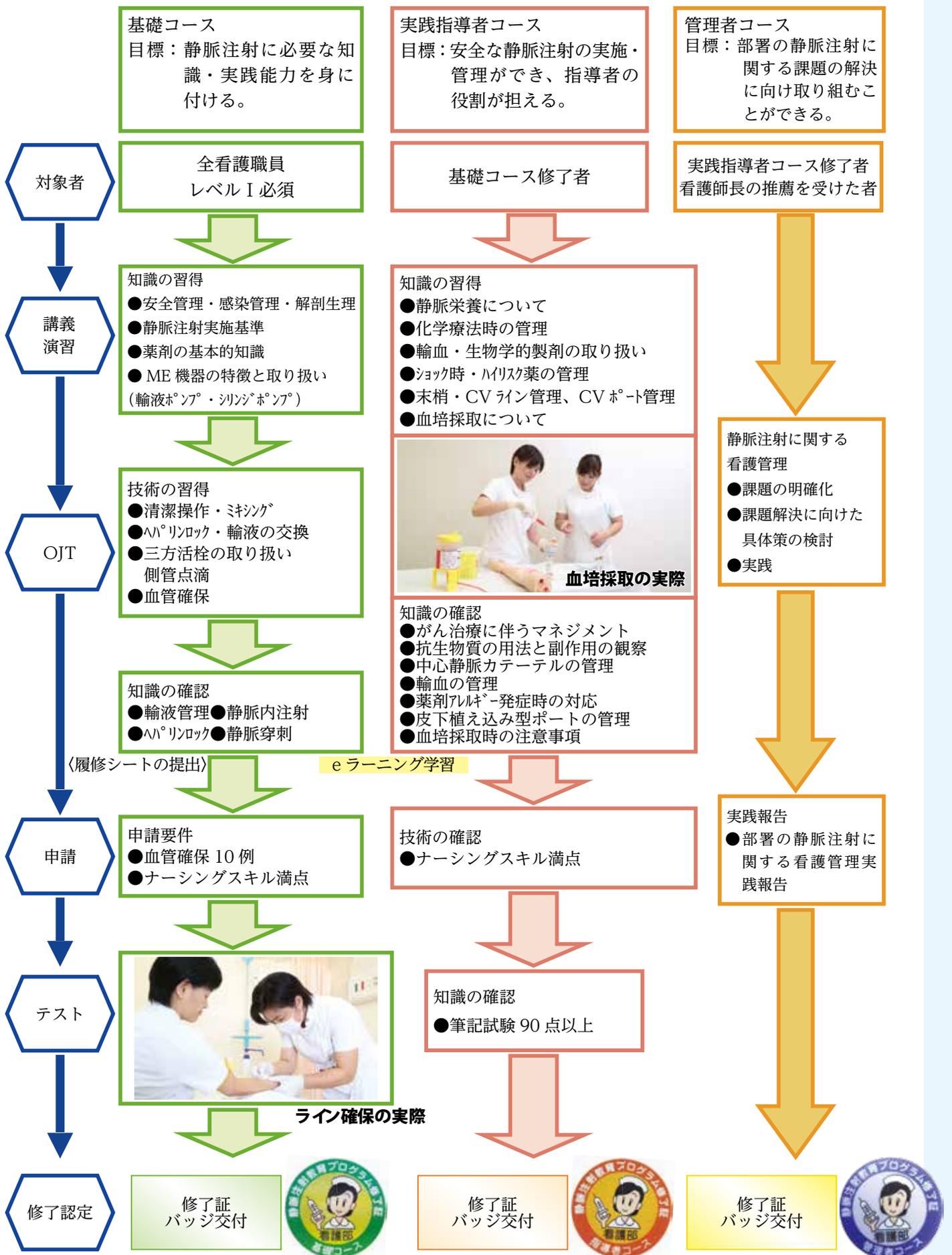
– 高齢患者の看護医 研修プログラム –

目的 高齢者の特徴及び必要なケアについて学び高齢者に対する看護実践能力を育成する(1日研修)

項目	内容	担当講師
高齢者の身体的、精神的特徴	◆高齢者の心身の加齢変化と健康アセスメント ◆高齢者の理解、老齢介護の実際、高齢者の倫理	認知症看護認定看護師
高齢者の身体的機能とフレイル	◆高齢者の身体的機能について ◆フレイル対策としてのリハビリ(予防と改善)	リハビリテーション部医師
高齢者の皮膚の特徴と皮膚トラブルへの対応	◆高齢者の皮膚の特徴、皮膚トラブルの原因と予防対策 ◆スキンケア、トラブル時の具体的ケア	皮膚・排泄ケア認定看護師
高齢者の栄養	◆高齢者の栄養アセスメントと必要なデータについて ◆栄養障害とサルコペニアについて	集中ケア認定看護師
高齢者の摂食嚥下	◆嚥下に関わるメカニズム、高齢者の摂食嚥下障害の特徴 ◆食形態について	摂食・嚥下障害看護認定看護師



2023年度 現任教育 - 静脈注射教育プログラム -



院内研修 –レベル I 教育–

BLS

目的 一時救命処置の理解と手技が習得できる。

演習のポイント

- BLSの一連の流れ
- 胸骨圧迫の仕方
- マスク換気方法
- 意識レベルの確認
- AEDの使用法

胸骨圧迫・人工呼吸は30:2でいきましょう！



効果的な胸骨圧迫は、しっかり押ししてもどすこと！

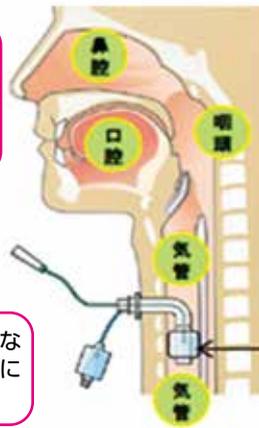
気管内吸引

目的 気管内吸引時に必要な観察を行い正しい方法で気管内吸引ができる。



チューブの挿入長さは？
吸引圧は？
吸引時間は？
痰を上手く取るコツは？

上手く痰が出せないと吸引が必要になります。



講義

- 呼吸の解剖・生理
- 気管内吸引時の看護について

演習のポイント

- 視診・聴診で蓄痰等の観察と早期対応ができる。
- 気管内チューブの管理と吸引の手技を獲得する。

エンゼルケア

目的 患者さん・ご家族に対する死亡時のケアの意義を理解し実践できる。
(ご家族への配慮、シャワー浴、更衣、エンゼルメイク)



お顔をきれいにしましょう。

顔のマッサージ



お着替えてお家に帰る準備をしましょう。

更衣の実際

演習のポイント

- 自己の体験の共有 (グループワーク)

<ケアの実際>
顔のマッサージ

シャワー浴

更衣

- ・ネクタイの結び方
- ・エンゼルメイク

院内研修 –レベルⅡ教育–

フィジカルアセスメント

目的 フィジカルアセスメントに必要な知識・技術を獲得し、緊急性及び重症度の判断ができる。
フィジカルアセスメントに基づいた看護展開ができる。



知識の習得

(eラーニング学習・テスト)
 ■正常呼吸音・心音
 ■異常呼吸音・心音

技術の習得

(シミュレーター活用)
 ■問診・視診・触診
 ■打診・聴診

事例で学ぶ

(シミュレーション)
 ■肺炎、心不全、イレウス、DVTの事例を通して臨床推論する。

看護診断

目的 臨床判断に基づく看護過程の展開ができる。

看護判断スキルアップ研修 (初級から上級まで段階を経て終了する)

初級コース (6時間)
 目標: 看護判断の意味・意義・活用を理解する

中級コース (6時間)
 目標: アセスメントと診断プロセスを身につける
 看護診断に必要な知識を身につける

上級コース (6時間)
 目標: 看護診断の指導・活用に自信をつける

看護診断指導者育成研修

事例検討会 (院内)
 目標: 看護診断と看護介入を振り返り、臨床判断力を鍛える

フォローアップ研修 (院外)
 目標: 看護診断力を鍛える

エキスパートナース育成研修
 目標: 看護診断に対する助言・指導ができる

先輩ナースからのエール



10階東病棟 根間 みなみ (2022年入職)

私は新人看護師として呼吸器・消化器・感染内科に勤務しています。現在は新型コロナウイルス感染症患者受け入れ専用病棟であり、コロナ禍で初めての新人看護師配属となりました。入職して間もない頃は防護具を着用することですら精一杯で緊張の日々でしたが、先輩方の温かい指導や同期の支えのおかげで、今では自信を持って患者さんと関わるできるようになりました。また、様々な診療科の患者さんを見る中で、幅広い看護の知識や技術を日々学ぶことができています。特殊な環境下ですが、どのような状況であっても患者さんとご家族のつながりを感じられる看護を提供できるよう、これからも頑張っていきたいです。



9階東病棟 安里 公一郎 (2022年入職)

私は循環器・腎臓高血圧・神経内科の病棟へ配属となりました。初めは覚える業務も多く、患者の対応やケアに戸惑う事も多々ありました。しかし、教育サポーターや先輩方の手厚いサポートを受け、徐々に自立して看護を行えるようになってきています。また、新人ナラティブ発表会ではより自分を見つめ直す機会があり、患者の身体的側面以外に気を向けられていなかったことに気づくことができました。良い看護を提供するためには、患者を知ることが非常に大切であり、そのために日々患者の声に耳を傾け、トータルペインで捉えることができるよう意識しながら日々頑張っています。



8階西病棟 大城 和志 (2021年入職)

私は、耳鼻咽喉科病棟で勤務しています。入職前は、学生時代の学びや看護技術が実際の医療現場で通用するのか大きな不安がありました。しかし、新人の考えを尊重し、手厚いサポートをしてくれる先輩が多く、やりがいを持って看護実践することができました。実際に学んだことや新しくできるようになったケアが患者様の援助に繋がり、「ありがとう」と言ってもらえると嬉しく思います。これからも患者様に寄り添った看護を提供できるように頑張っていきたいです。



9階西病棟 徳元 裕子 (2019年入職)

私は内分泌代謝・血液・膠原病内科の病棟に配属されて5年目になります。日々、患者さんやご家族との関わり、時間切迫・多重課題などにどう対応したらよいか戸惑い悩むことも多くありました。しかし、師長や先輩方が優しく寄り添ってくださり、同期と励まし合い、自身の看護を振り返り実践につなげることができました。また、コロナ禍では多くの困難もありましたが、スタッフ一同連携して日々を乗り越えることができました。今後は日本糖尿病療養指導士取得を目標とし専門的知識に基づいた看護を提供できるよう努めたいと思います。初心を忘れず、患者さんやご家族の安心・安全を第一に、看護ケアを実践していきたいです。



8階西病棟 佐久間 博明 (2006年入職)

私は、当院第一期生として特定行為研修へ参加しました。当院の自慢は、経験豊富な講師陣による院内研修と、素晴らしい研修環境です。仕事と両立して研修に参加できることも魅力的です。私は栄養、動脈血液採血、人工呼吸器の設定変更などを主として自部署で区別行為を展開しています。

特定行為の強みは、医療の視点で看護の専門性を発揮した臨床判断の提供をタイムリーに実践できることです。異常の早期発見を意識し、治療の長期化の予防に努めています。



手術部 比嘉 奈津子 (2008年入職)

手術室では、医療の進歩により様々な術式が導入され、各診療科の手術介助を習得する中で、大変ではありますが、やりがいのある現場です。特殊体位での手術が増加しており、高齢者の増加、既往疾患により脆弱な皮膚状態の患者さんも多くなっています。麻酔下で手術する患者さんの皮膚障害を予防するためには、最新の知識の習得、技術向上が大事だと考え、創傷ケア院内認定看護師を取得しました。手術を受けられる患者さんが不安な中、手術創以外の傷を残さないように手術室看護師として試行錯誤し、努力しています。

働き続けられる職場環境



周産母子センター 西 巳奈子（2000年入職）

私は2000年に琉球大学病院に入職し、もう20年以上がたちました。その間に4人の子どもが誕生し、仕事と子育ての両立に何度も悩まされながらも、家族や職場の上司、同僚に支えられながらここまでやってこられました。配属されたそれぞれの部署では、忙しい中でも多くの学びが得られました。もちろん挫折しそうなこともありましたが、それ以上に素晴らしい出会いや喜びがありました。現在、成長した息子たちからは当たり前のように「お母さんすごいね」「がんばってきてね」と声をかけられます。その言葉を聞くと、つらい時期を乗り越えられた、頑張ってよかった！と思います。

子育ての悩みは成長段階によって変化し、まだまだ現在進行形中ですが、今もまさに周囲のサポートがあって、働くことができています。これからも感謝の気持ちを大事に、笑顔で明るい健康な看護師をモットーに、楽しく働いていきたいと思っています。



7階西病棟 請舩 亮太郎（2012年入職）

私は11年目看護師として、循環器内科病棟での経験を経て、現在は消化器外科病棟で勤務しています。治療は手術や化学療法、放射線治療、内視鏡的治療と多岐に渡り、患者さんは急性期治療から終末期まで幅広く、また、高度医療に必要な臨床判断を学ぶだけでなく、意思決定支援やグリーンケア、看護の奥深さを日々学んでいます。働く中で、初めは認定看護師や特定行為看護師を目指していましたが、成長していく後輩への指導にやりがいを感じ、現在は副師長として教育管理に携わっています。流行する感染症のなかで、臨地実習経験が少ない新人を迎え入れるにあたり、病棟での教育体制変革に向けて取り組んでいます。向上意欲の高いスタッフと共に、皆さんと一緒に働ける日を楽しみにしています。



感染対策室 渡慶次 道太／集中治療部 渡慶次 綾乃

我々夫婦は、琉球大学病院に勤務して11年を迎えようとしています。その間、娘が誕生し、今年で6歳になります。現在、我々夫婦は、感染対策室と集中治療部に配属されており、新型コロナウイルス感染症をはじめ、幾多の感染症に微力ながらも対応できるよう尽力しております。子育てにおいては、育児時短勤務制度や実家の手厚いサポートのおかげで、夫婦ともに病院勤務と子育てを両立させ、娘の健やかな成長を見守ることができています。

当院ではキャリアアップ支援も充実しています。夫は2年間に渡る課題解決型高度医療人材養成プログラムに参加させていただき、臨床/看護研究について深く習熟させることができました。更に、部署の上司や同僚の支援もあり、感染管理認定看護師や排泄ケア専門員の資格を取得することができました。また、妻はがん患者の退院支援・在宅療養支援コースを受講し、看護師として幅広く知識と技術の向上を図る機会を得ることができました。2025年には、新病院移転と開院が控えています。

今後は、私たちの未来に、看護の声が届くように不惜身命の思いで精進していきます。



琉球大学病院保育園（いずみ保育園）



病後児保育室（ゆくる一む）

部署紹介



人工呼吸器管理

10階 東病棟

第一内科：呼吸器・消化器・感染内科

■ ベッド数：42床（感染症病床：6床、結核病床：4床を含む）

当病棟では、毎年「呼吸療法士」の資格取得に挑戦し、人工呼吸器管理など質の高い呼吸器ケアの提供に取り組んでいます。また、肝炎コーディネーターの資格をもつ看護師が医師、栄養士、薬剤師と協働で「肝炎教室」を開催し、肝炎予防や治療の啓蒙活動に繋がっています。さらに、日本エイズ学会認定看護師を中心に多職種カンファレンスや、症例報告会に参加し、エイズ治療・看護の質向上に取り組んでいます。一昨年から新型コロナウイルス感染症患者の受け入れ専用病棟として、感染対策を行いながら診療介助、看護ケアを実施しています。

（看護師長 仲村 なおみ）



ウロストミーケアの指導

10階 西病棟

腎泌尿器外科、皮膚科、第一内科

■ ベッド数：47床

腎泌尿器外科・皮膚科ともに癌を有する患者が多く、周術期から終末期まで様々な病期の看護を提供しています。

腎泌尿器外科では腎移植看護やウロストミーケア、排尿自立に向けた指導を中心に実践しています。また、皮膚科では難治性の皮膚疾患を抱えた患者さんのスキンケアに加え、感染予防や疼痛緩和に力を入れています。

（看護師長 城間 弥生）



心リハ療法士による退院に向けてのリハビリ風景

9階 東病棟

第三内科：循環器・腎臓高血圧・神経内科

■ ベッド数：48床

急性期、慢性期の循環器・腎臓高血圧・神経疾患患者さんの早期回復をめざし、多職種や地域との連携を大切にしています。心疾患においては心臓リハビリチームと連携し、多職種で慢性心不全カンファレンスを充実させ、早期回復に繋がっています。また、腎不全患者に対しては血液浄化療法部と協働しチームで腹膜透析、維持透析時の意思決定支援に力を入れています。非がん患者さんの緩和ケアや高齢者看護など看護実践力の向上に取り組んでいます。

（看護師長 上原 泉）



インスリン自己注射指導

9階 西病棟

第二内科：内分泌・血液内科

■ ベッド数：48床

糖尿病療養指導士を中心に患者・家族を対象とした生活習慣予防教室を開催しています。個別指導として糖尿病療養指導カードを用い、患者の生活スタイルにあった指導を行い在宅療養が継続できるように取り組んでいます。また、造血幹細胞移植推進拠点病院となり患者さんが安心して治療を受けられるようにサポートしています。

（看護師長 島袋 優子）



摂食嚥下機能障害の患者へのリハビリ

8階 東病棟

脳神経外科、眼科

■ ベッド数：48床

脳神経外科では、手術前、手術後、治療（放射線・化学療法）を受ける患者さんの看護を実践しています。また、リハビリと連携し運動機能や摂食嚥下機能のリハビリを強化。リハビリ、栄養課と連携し患者さん個々に合わせた食事を提供出来るよう連携を強化しています。

眼科では、外来・病棟看護師が連携を取り、患者さんが安心して治療に臨めるようクリニカルパスを活用し、入院時の説明を行っています。

（看護師長 山川 知美）



口腔ケア学会認定看護師による口腔内ケア

8階 西病棟

耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、形成外科

■ ベッド数：48床

当病院の主な疾患は、頭頸部の悪性疾患、口腔内腫瘍、慢性中耳炎などです。手術や放射線・化学療法を受ける患者さんが多く、専門的なケアを実施しています。特に、口腔内のアセスメントとケアに力を入れており、口腔ケア学会認定看護師が中心となってケアを実施しています。また、NST チーム、緩和ケアチームなど多職種と連携し、患者さんの QOL の維持・向上に向けた支援に取り組んでいます。

（看護師長 佐久間 博明）



状態観察しながらの術後早期リハビリ

7階 東病棟

第二外科：胸部・心臓血管外科

■ ベッド数：48床

病棟では高侵襲の手術が多く、合併症予防・早期回復のための全身観察や術後早期からのリハビリ、生活背景に即した退院指導等を、多職種を含めたチームが一丸となって取り組んでいます。また、患者誤認や転倒予防への取り組みや、認知症・せん妄予防ケアにも力を入れ、安全で安心な療養生活が過ごされるよう支援しています。

（看護師長 玉城 賢志）



認定看護師とのベッドサイド褥瘡カンファレンス

7階 西病棟

第一外科：消化器外科・内分泌外科、麻酔科

■ ベッド数：48床

周術期治療、癌治療、生体肝移植などの高度先進医療を行っています。患者さんの背景を捉え、患者さんの力を引き出すために、「みて、触れて、考える」ことを大切に、医療・看護を提供しています。早期回復を目指し、合併症予防のためリハビリにも力をいれています。また、多職種で連携し、癌化学療法、褥瘡・皮膚創傷ケア、人工肛門ケア、退院支援などを強化しています。

（看護師長 宮城 和美）

部署紹介



体幹装具の装着方法の指導

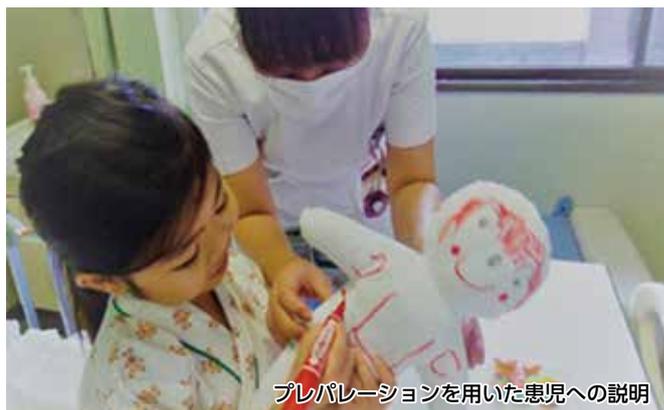
6階 東病棟

整形外科

■ ベッド数：48床

筋骨格系疾患の患者さんを対象に各年齢層の身体的特徴、心理面を捉えた看護を提供しています。術後は合併症予防に努め、早期離床と患者さんの状態に併せた日常生活の援助・指導を行っており、医師・理学療法士・作業療法士・栄養士・薬剤師など多職種カンファレンスで情報を共有・連携しながら患者さんを支援しています。

(看護師長 友利 あかね)



プレパレーションを用いた患児への説明

6階 西病棟

小児科

■ ベッド数：38床

当小児科は、沖縄県内唯一子どもの造血幹細胞移植を行っています。他職種チームによる移植後患者のQOL向上を目指した、フォローアップ外来を開設し活動しています。

小児看護では、幅広い年齢層の発達段階に応じた対応が求められていることから、幼児期・学童期の子どもたちにはプレパレーションを行い、入院・処置に対する不安軽減に努めています。また、季節にちなんだレクリエーションを開催し、長期入院の子ども達にも季節を感じてもらい、リフレッシュできるように頑張っています。

(看護師長 比嘉 泉)



摂食障害者への退院支援
(ミールセッション)

5階 東病棟

精神科神経科

■ ベッド数：40床

精神科神経科病棟では、身体合併症や手術を要する患者、妊産婦、児童思春期の疾患など、急性期の治療が必要な患者を積極的に受け入れ、看護ケアを実践しています。

リエゾンチームでは、一般科の身体疾患治療中に起こる患者の心理的問題に介入し、心のケアと医療者の支援を行っています。また、医師・看護師・PSWで退院前自宅訪問の実施、地域の関連機関とのカンファレンスを行い、退院支援に取り組んでいます。

(看護師長 大城 真須美)



リンパ浮腫指導

4階 東病棟

婦人科

■ ベッド数：31床

婦人科の手術・薬物療法・放射線療法前に患者指導を行い、副作用症状の予防や早期対応に努めています。また、下肢リンパ浮腫に対するリンパマッサージや排尿自立支援に力を入れています。2020年5月に外来プール制を導入し継続看護の強化を図っています。チーム医療を推進し広い視点で個別性に応じた患者支援に繋がっています。

(看護師長 下地 生恵)



PET-CT 検査時の患者への検査説明

1階 西病棟

放射線科、耳鼻咽喉科、腎泌尿器外科

■ ベッド数：20床

当科は、放射線検査、治療部門における診療の介助と看護ケアを提供しています。安心・安全に配慮して医療看護を提供しています。どの部門においても急変時・緊急時の対応が出来る人材育成、シミュレーション教育にも力を入れております。

また、病棟においては放射線単独療法から、併用療法、分子標的薬物療法、動注療法や塞栓療法等を受ける患者さんの副作用ケアに力を入れています。さらに治療部門では、がん放射線認定看護師を専任配置し、全人的な看護を掲げ、患者さんの不安の軽減、放射線皮膚炎等の症状緩和に向けた、スキンケア指導を強化してセルフケアをサポートしています。

(看護師長 里見 嘉都美)



退院間近のGCU患児のケア

4階 周産母子センター

産科・NICU・GCU

■ ベッド数：32床(産科20床・NICU6床・GCU6床)

地域周産期母子センターとして地域と連携し、ハイリスク妊産婦に対して妊娠初期から退院後1か月間、育児遂行力の向上に繋がるよう保健指導を充実させています。

NICU・GCUでは、重症患児や低出生体重児への重症ケアに対応しながら、カンガルーケアを通して母子の愛着形成に繋がるようケアを提供しています。

(看護師長 比嘉 美津代)
(認定看護管理者)



ICUベッドサイドリハビリ

4階

集中治療部

■ ベッド数：8床

集中治療部は高度で専門的な治療や看護を必要とする患者さんが入室する病棟です。医師、看護師、理学療法士、臨床工学技士などでカンファレンスを行い、治療・処置・リハビリなどについて検討し看護ケアに活かしています。

また、急性期リハビリ・せん妄予防ケア・栄養・口腔機能評価に取り組み、合併症予防に努めています。

(看護師長 具志 香奈絵)



最先端手術における直接介助

4階

手術部

■ ベッド数：11床

周術期看護は、主に術中を中心とした安全・安心な看護を提供しています。手術に特化した知識や技術が必要とされ、進歩する医療技術に対応できるよう日々自己研鑽し専門性を高めています。

ロボット支援手術や、ハイブリット手術、生体肝移植術など、最先端の高難度手術を安心・安全な手術に向けコメディカルと協働しています。

(看護師長 根保 愛)

部署紹介



模型を使ったインスリン自己注射の指導

1～3階

外来

■ 診療科：21科

患者の満足度とQOLの向上をめざし、接遇強化や患者誤認防止対策を継続しています。患者が安心して入院し退院後の生活も不安なく送れるように病棟と情報共有の強化に取り組んでいます。さらに、専門分野の資格者を活用し、専門・認定看護師と連携を図っています。外来化学療法室や糖尿病療養指導、皮膚・排泄ケア、がん看護外来、HIV療養指導、造血幹細胞移植後外来など多岐にわたり、看護師が活躍しています。

(看護師長 宮城 京子)



洗浄後の機材の拡大鏡を使った目視点検

3階

材料部

材料部では医療材料の物流管理と、医療機器の洗浄・滅菌業務を行っています。洗浄・滅菌には専門的な知識と技術が必要であり、第一種滅菌技師、第二種滅菌技師資格取得者により、目視点検や洗浄評価、滅菌の質保証体制の整備を行っています。患者さんに安心・安全な医療器材を提供するために品質管理の向上を図っています。

(看護師長 宮城 孝徳)



心肺停止患者受け入れ時の対応シミュレーション

2階

救急部

■ 外来ベッド数：6床 HCU：6床

救急外来は1次から3次までの救急患者を24時間体制で受け入れています。重症、心肺停止患者の初療処置・検査・治療までをチームで取り組んでいます。

また、院内トリアージを導入し、重要度、緊急度を見極め、その後、定期的な検証の実施を行い、知識、技術の向上に努めています。HCUは救急外来から入院する小児から高齢者まで各科の重症患者を受け入れています。クリティカルケア看護が安全に提供できるようチームで取り組んでいます。

(看護師長 島袋 博美)



血液透析中の多職種による安全確認

2階

血液浄化療法部

■ ベッド数：20床

急性から慢性腎不全の血液透析を初め、腹膜透析外来、腎代替療法外来、アフレルシスなど多種多様な療法に対応しています。

また、重症患者の循環管理、感染管理などに取り組み、安全な透析医療の提供するため医師・看護師・臨床工学技士・管理栄養士が各々の専門性を発揮しチーム医療の推進を図っています。

(看護師長 古謝 美智子)



入院や退院支援に向けての相談

2階

医療福祉支援センター

医療福祉支援センターには、医師や看護師・ソーシャルワーカー・事務職などが協働して患者さんの社会的・経済的問題や医療・看護等に関わる様々な不安や心配事の相談に応じています。入院準備室や退院調整部門では、入院が決定した時点から安心して入院生活が送れるよう入院前から退院を見据えた問題点を抽出し、多職種と連携し、地域の医療機関や関連施設への転院、訪問看護ステーションなどと連携し在宅療養支援に繋がっています。

(看護師長 原永 賀子)



気管内吸引のタスクトレーニング

別館

おきなわクリニカルシミュレーションセンター (ちゅら sim)

病院敷地内に隣接したおきなわクリニカルシミュレーションセンターで臨床と同じ環境下において、何度でも繰り返しトレーニングすることで看護技術が習得できる施設です。静脈注射の個人練習やテストを実施し、技術評価を行っています。院内 ICLS (急変トレーニング) を実施し、少人数のグループできめ細かな指導を行っています。

(看護師長 知名 智子)



検査・治療前のタイムアウトの実践

4階

光学医療診療部 (内視鏡室)

■ 検査室：4室 (透視室1室)

光学診療部では、内視鏡を使用して上部・下部内視鏡・小腸内視鏡・気管支鏡・カプセル内視鏡・逆行性膽胆管造影検査・治療などを専門的に行っています。

安全・安楽に内視鏡検査・治療を行うため、外来や病棟と連携し、検査前から患者さんに寄り添いながら、不安の軽減に努めています。チーム医療として安全に検査・治療を実践するため医師、看護師、臨床工学技士などのコメディカルと協働し取り組んでいます。更に看護師も内視鏡技術士の資格を取得し専門性を高めています。

(副看護師長 金城 真由美)

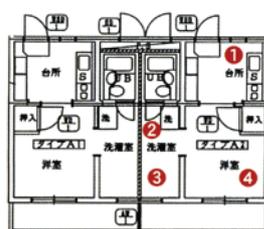
看護師宿舎

入居希望者に対し、大学敷地内に職員宿舎 (ワンルームマンションタイプ) を用意しています。

- ★全室個室無料提供
- ★女性独身者対象
- ★光熱費・水道料は個人負担

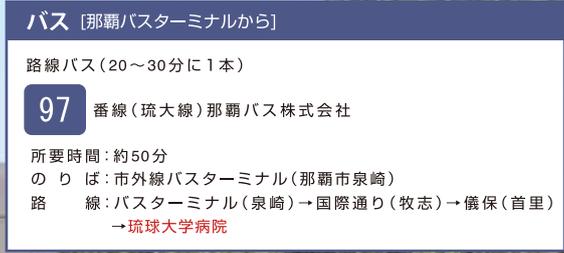
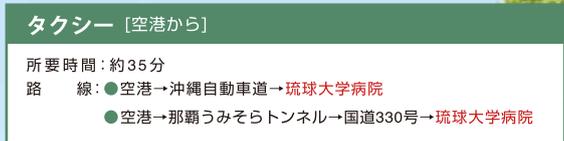
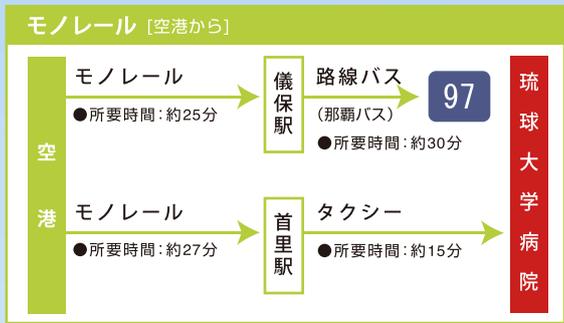


看護師宿舎全景



間取り





看護部ホームページ

看護師募集については、ホームページの採用情報をご覧ください。採用試験、インターンシップ、施設見学、先輩との交流会情報についても、随時ホームページにアップします。



<http://kango.skr.u-ryukyu.ac.jp/>